



## 並行読書のすすめ

学校図書館支援センターが行っている学習支援用図書セット貸し出して、大変人気があるセット『大豆』は、3年生の国語「すがたをかえる大豆」という学習からの、大豆についての知識をより広げるための読書活動に使われています。

「すがたをかえる大豆」と大豆に関連した図書を並行して読むことは、教材文に書かれている内容をより深く理解したり、教材文には書かれていない新たな知識を得たりして、大豆のことを探求しようとする意欲を高めることができます。

「すがたをかえる大豆」の学習で、並行読書を活かした活動にはつぎのような取り組みがあります。

- 並行読書をして色々な大豆の本を読む。
- 自分が調べたいテーマを絞る。(例:味噌・醤油・豆腐・納豆 など)
- 同じテーマを選んだ人とグループになり、テーマについて本で調べる。
- 「すがたを変える食べ物」をテーマにし、いろいろな食べ物について書いた本を読む。

調べたことは、プレゼン、新聞、紙芝居などさまざまな方法でみんなに発表することが大切です。発表することで、自分が調べたことがより確かになったり、他の発表を聞いたりすることで、新たな知識を得たりすることが出来ます。このような活動は、学習意欲にもつながります。

教科書で学習したことの「並行読書」をぜひ学習に取り入れてみましょう。

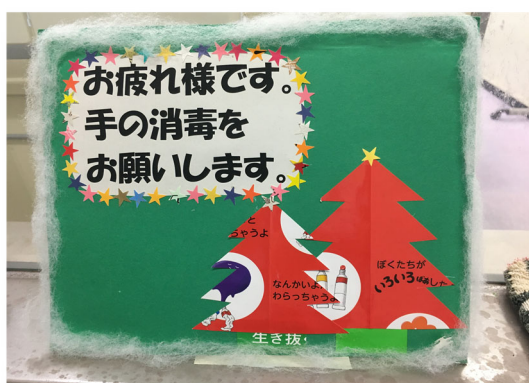
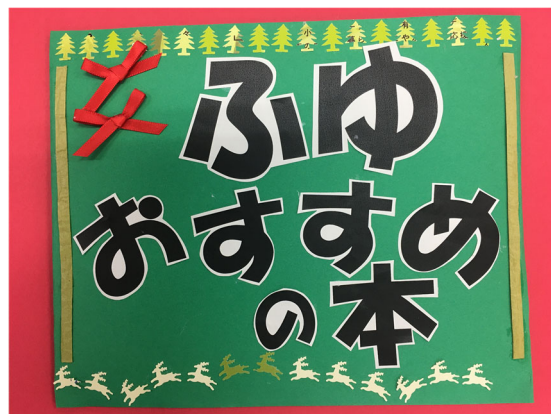
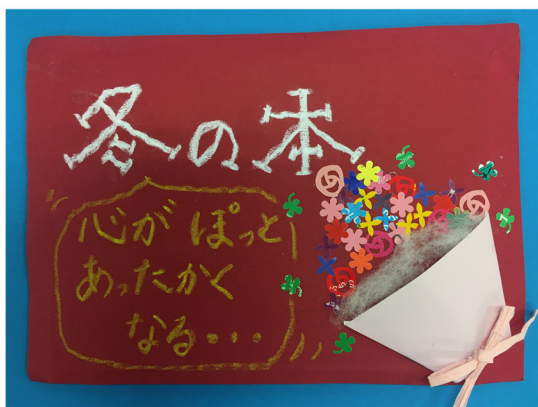
また、学校図書館に「並行読書コーナー」を設けてみましょう。

「すがたをかえる米について調べてみたい。」「同じ作者の本を読んでみたい。」「他の昆虫についても知りたい。」など、子どもたちの読書意欲はどんどん広がっていくことでしょ。

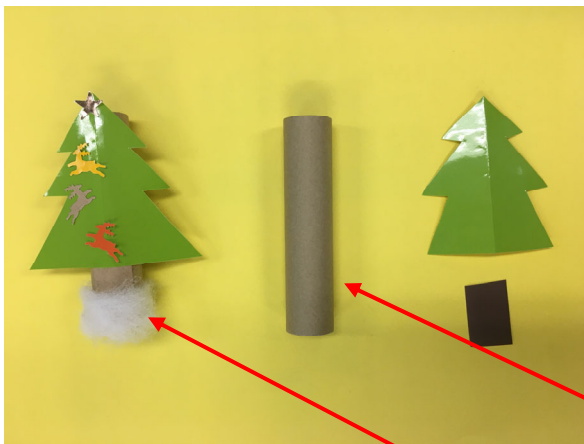


## 本の帯を使った11月・12月の掲示・展示

いよいよ12月になります。クリスマスにちなんだ本もたくさんあります。図書館から、すてきな本を子どもたちにプレゼントしたいですね。



赤色や緑色の帯を使って、クリスマスの掲示物を作ってみました。図書館がパツと明るくなりますね。



ペーパーの芯に、帯で作ったツリーを貼ります。

ツリーには、型抜きで切り取ったものを貼ると華やかになります。

また、木の根元に綿を巻くと、冬らしくなりますね。

さらに、作ったツリーを箱に並べるとかわくなります！



## 12月の人どもの

### 12.4~10日 人権週間

1948年の国連総会で「世界人権宣言」が採択されたことを記念して始まりました。宣言には、すべての人間は差別されてはならないことや基本的人権が守られなければならないことが定められています。10日は「世界人権デー」です。

### 12.22 冬至

冬至の日には、ゆず湯に入る習慣があります。身を清める風習ですが、風邪をひかないように体を温める効果もあります。また、かぼちゃを食べる習慣もあります。寒い冬を乗り切るため、栄養をとるといふ昔の人の知恵です。

### 12.24 チョコレート

#### 日本初の発売

チョコレートが日本に伝えられたのは江戸時代のことですが、一般に発売されるようになったのは1878年。この日、初めてチョコレート広告が新聞に「貯古齡糖」の名で、よい味の栄養のある菓子と紹介されました。

夏目 漱石(1867.1.5~1916.12.9)

近代日本を代表する文豪。英語教師を務めた後、イギリスに留学します。帰国後、小説を書き始め、『吾輩は猫である』や『坊ちゃん』などを発表しました。ペンネーム「漱石」は「石に漱(くちす)ぎ流れに枕す」の中国の故事に由来します。

福沢 諭吉(1834.12.12~1901.2.3)

明治の啓蒙思想家、教育家。江戸時代に欧米に渡り、西洋の近代思想を学びました。慶應義塾を創設、また、『学問のすすめ』などの本を多く著し、自由と独立の精神、人間が平等であることや学問の大切さを説きました。

ジャン=アンリ・カジミール・ファールブル

(1923.12.21~1915.10.11)

フランスの昆虫学者。子どもの頃から自然に親しみました。師範学校卒業後、教師をしながら博物学を研究。昆虫の生態をじっくりと観察し、約30年かけて全10巻の『昆虫記』を書き上げました。

【あとがき】吹く風が少し肌寒く、木々の緑も赤や黄色に色づく秋になりました。「秋晴れ」の日は、外で大きく深呼吸したり、自然に触れてみたりと、深まる秋を五感で感じたいですね。また、秋は「読書の秋」と言われるように、読書に適した季節です。公民館、各区にある図書館、総合図書館などさまざまな所で本を借りて読むのも良いですね。(足立)



今日は、言葉の楽しさに触れることのできる本をご紹介します。

『目でみることばのずかん』

おかべ たかし／文 やまで たかし／写真 東京書籍 2016年 ¥1600(税別)

<お勧め年齢>

乳幼児★☆☆ 小低学年★★★ 小中学年★★★ 小高学年★★☆ 中学生★★☆

高校★★☆ 一般★★☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

「ひっぱりだこ」という言葉の由来は? 「冬」という漢字の成り立ちは? 「アザラシ」と「アシカ」はどう違う? 「キー(key)」と「ロック(lock)」の違いは?

この本は、これらをすべて写真で表している本です。あわせて38の言葉を迫力のある美しい写真で表現し、簡単な解説も加えています。

<子どもに手渡す時のポイント>

言葉に興味を持ち始める頃に手渡してあげると、楽しみながら言葉の世界が広がっていくと思います。振り仮名もついていて解説も少なく、小さい子どもでも読める作りになっています。パラパラとめくって写真を見るだけでも楽しめます。

中学生以上くらいならば、同じ著者による『目でみることば』1~3、『目でみる漢字』、『似ていることば』、『似ている英語』もおすすめします。これらは、『目でみることばのずかん』のもとになっている本ですが、振り仮名もなく、もう少ししっかりとした解説がついている一般書です。楽しく言葉の世界に触れられるシリーズです。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。



発行：福岡市教育委員会

総合図書館 図書サービス課

電話：092-852-0639

FAX：092-852-0801